

中国社会科学院との合同開催 日中人口・社会保障ワークショップ

2014年9月15日（月）中国・北京にて、『日中人口・社会保障ワークショップ』を行った。これは、社人研と中国社会科学院との合同開催となるもので、日本側は社人研から4名の研究者が北京を訪れ、中国側は、中国社会科学院の人口と労働経済研究所、日本研究所、社会学研究所の3研究所の人口・社会保障に関する専門家15名、さらに日中の専門家や、中国国家衛生と計画生育委員会、在中国日本大使館、JICA中国事務所の担当者らの参加を得た。発表内容は次の通りである。

1. 鄭真真（人口と労働経済研究所）『中国人口変動趨勢：人口高齢化と新しい都市化』
2. 林玲子（社人研）『東アジアにおける人口移動の国際比較と地域人口分布変動』
3. 王偉（日本研究所）『日中高齢者収入格差比較』
4. 鈴木透（社人研）『東アジアの家族パターンと人口変動』
5. 馬春華（社会学研究所）『東アジア四か国家家庭構造と家庭関係比較研究』
6. 金子能宏（社人研）『社会保障制度の持続可能性—年金と医療保険の場合』
7. 張展新（人口と労働経済研究所）『中国の戸籍制度と社会保障改革』
8. 丁英順（日本研究所）『日本における高齢者の人材開発の経験と含意』
9. 石金群（社会学研究所）『中国高齢者の精神健康及びその保障』
10. 小島克久（社人研）『日本の介護制度と東アジアへの政策的示唆』
11. 林宝（人口と労働経済研究所）『中国における長期ケア保険の方法選択』

世界最高の人口高齢化率である日本と、今後急速な高齢化が進むと見込まれている中国における、都市化・人口移動や、家族の変容、高齢者の活躍と健康・介護・医療施策など共通の課題について、また中国の戸籍制度改革も含め、人口と社会保障分野の包括的かつ詳細な情報共有が図られ、盛んな討論が行われた。なお、様々な調整を経て最終的には中国社会科学院等の第一線の日本研究者が同時通訳を担当することとなり、通訳ストレスのない日中二か国語交流が実現した。

社人研と中国社会科学院は、今年度だけでも、社会学研究所とのワークショップ（4月、於：社人研）、日本研究所の訪問（5月）を受けており、今後も継続的な研究交流が進められる予定である。

（林 玲子 記）

ヨーロッパ人口学会「健康・疾病・死亡」研究部会ワークショップ

ヨーロッパ人口学会「健康・疾病・死亡」研究部会（EAPS Health, Morbidity and Mortality Working Group）の2014年度ワークショップが、9月15日から17日にかけて英ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス（LSE）の本部キャンパスで開催された。イギリス人口学会ならびにLSE人口学科との共催となった今年度のワークショップでは、Emily Grundy（LSE）、Arjan Gjonça（LSE）、Yonathan Anson（イスラエル・ベングリオン大学）を組織者として、「The continuing importance of inequality in health and mortality analyses?」というワークショップ・テーマのもと約30タイトルの口頭発表が行われた。3日間におよぶワークショップでは、欧州をはじめとする先進国に加えて、アフリカならびに中南米の国々における調査データを用いた健康・死亡指標の格差やその関連要因に関する分析結果が報告されたほか、地理情報システム（GIS）やマルチレベル・モデリングによる小地域統計の分析に関する方法論的なテーマについての研究発表も行われ、各国からの参加者が専門的な意見を交わした。当研究所からは筆者が参加し、「Residential mobility, neighbourhood characteristics, and health status among the urban elderly in Japan: A multilevel analysis」という